



おはようございます

日本共産党
市議会議員

いぬいえりです

2025年10月6日 NO.49



9月議会報告続き 不登校政策について

日本共産党は5月に「不登校についての提言」を発表しています。それをベースにしながら、6月議会・9月議会と続けての質問となりました。



6月の答弁より（子どもの数は2024年度末）

●不登校児童生徒の数 426人（小学生206人、中学生220人）、90日以上欠席242人

●相談体制 市スクールカウンセラー10名、スクールソーシャルワーカー3名、県スクールカウンセラーを各学校に配置（中学校週1回、小学校2週に1回）

●フリースクール通学者 29名（小中学校で出席扱いにしている数）

●フレンドステーション利用状況 2か所 合計34名

●不登校の親の会 年6回開催

を指摘しましたが、「国で議論しているので注視」のみ。現場の声の反映を国に求めるよう要望しました。

フリースクール、

家庭の負担は増えると認識

フリースクール通学助成はスルーですが、親の負担増は認め、他市のとりくみも注視、という答弁。県内松戸、市原で実施しています。

不登校で介護休業が使える場合もあることを紹介しました。

マンガ冊子

「たすけてが言えなくて」

これは健康増進課が作成したものです。不登校についても大変参考になる内容です。市のホームページからみられますので、ぜひ一度見てみてください。→



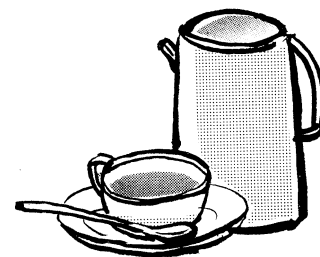
おおむね元気ならいいのか

6月の質問で、学校のそのものの在り方についてきいた際に「おおむね元よく明るく生活している」との答弁がありました。おおむねのこどもが元気であっても、不登校の子にとってはそれが100%です。学校づくりについて、9月にふたたび聞きました。

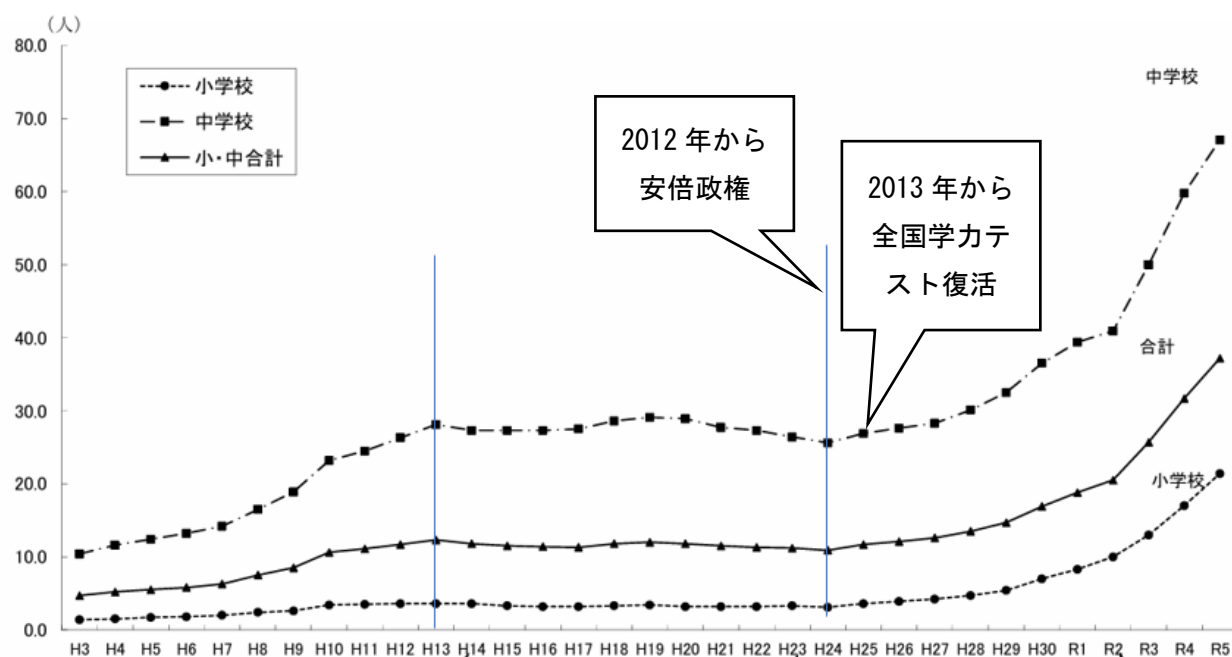
授業時間の増加と不登校の増加の関係



参考資料（全国）
 グラフは文科省
 吹き出しはいぬい



<参考3> 不登校児童生徒の割合(1,000人当たりの不登校児童生徒数)の推移グラフ



(注)調査対象:国公立小・中学校(小学校に義務教育学校前期課程, 中学校に義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程, 高等学校には中等教育学校後期課程を含む)

2002年(H14)
 小学校
 5367時間

2011年(H23)
 小学校
 5645時間
 (+278時間)

2020年(R2)
 小学校
 5785時間
 (+140時間)

